

# ▶ 決算特別委員会

----- 令和6年度決算を審査 -----

中川委員長以下7名の委員で構成する決算特別委員会において、10月27～29日の3日間、慎重に審査した結果、可決すべきものと決しました。その後本会議で採決し、原案の通り認定しました。

決算  
特別委員

委員長：中川 智之 副委員長：末廣 天佑  
委員：北地 範久、山代 英資、小出 哲義、山崎 年一、日域 究

## 委員会における質疑と答弁の一部

### ▶ 民生費

Q 介護・福祉人材確保事業の実績と現状を問う。

A 令和6年度の学び直し講座では、5名の参加があり、うち1名が常勤で就労された。  
6年度からの繰り越し事業の介護職員初任者研修は、14名が受講し、資格を取得した。うち4名が新たに就労されたと伺っている。

### ▶ 衛生費

Q 不法投棄対策連絡会の目的、構成団体、開催状況を問う。

A 市の不法投棄対策連絡会は、廃棄物の不法投棄対策と適正処理を目的として、自治会連合会、公衆衛生推進協議会、大竹警察署、市役所関係課で構成している。年に1回程度、関係者で協議している。

### ▶ 農林水産業費

Q 有害鳥獣駆除について、捕獲件数、被害額、クマ目撃件数を問う。

A 種別捕獲はイノシシ77頭、カワウ1羽、イタチ1頭、アナグマ5頭、ツキノワグマ1頭で、被害額はイノシシ33万7千円となっている。クマ目撃は39件で、令和6年度は前年より増えている。

## 商 工 費

Q 地域経済活性化補助事業について、補助金の具体的な成果を問う。

A 事業者の商品開発、新規創業、販路拡大などに補助金を交付している。効果を定量的に計るのは難しいが、これまで補助金を利用した創業は10店舗を超え、この中からふるさと納税の返礼品を出す事業者が現れるなど、地域経済の活性化に寄与していると考えます。

## 土木費および災害復旧費

Q 地籍再調査事業について、令和6年度の決算額1019万9千円の内容を問う。また、今後の予定を問う。

A 6年度の事業内容は、第1調査地区（南栄1丁目）と第2調査地区（西栄3丁目の一部）の再調査を実施した。  
1つの地区に4年をかける計画で、第1調査地区は5年度から、第2調査地区は6年度から再調査を始めた。  
第1調査地区は6年度が事業2年目となる。土地所有者を対象に事業説明会を開き、一筆ごとに所有者立ち会いのもと境界を確認する「一筆地調査」を実施した。3年目となる7年度には、前年度に確認した境界に基づく地積の測量作業、地籍図・地籍簿（案）の作成と閲覧を実施、4年目（最終年）となる8年度には、閲覧を終えた地籍図・地籍簿が法務局で登記される予定となっている。  
第2調査地区や、7年度開始の第3調査地区（西栄2丁目）、8年度開始の第4調査地区（西栄1丁目）の再調査も同様に行い、8年度以降は毎年度4つの調査地区で業務を実施する予定である。

## 教 育 費

Q 令和4年度以降の本市の不登校児童・生徒数の推移と、今後の対策を問う。

A 4年度は53名、5年度は70名、6年度は74名と増加傾向である。  
児童・生徒のストレスを蓄積させないために、誰もが安心して学べる魅力ある学校づくりに取り組む必要があると考える。学校生活の中心の時間は授業であり、授業を魅力あるものにすることが重要と考えている。

## 消 防 費

Q 全国的に「救急車が来てもなかなか病院に向けて出発しない」「患者の受け入れ先が見つからない」「病院をたらい回しにされる」などの問題が報じられていたが、現在の状況を問う。

A 現在、救急搬送システムを導入しており、令和6年度の救急出動1650件の全件で使用した。  
以前は現場から医療機関に電話で情報を伝えていたが、このシステムのタブレット端末で医療機関が傷病者の生体情報などを閲覧でき、現場や傷病者の状態などの画像データを添付することで詳細な状況が伝わるなど、スムーズな病院選定や搬送ができており、受け入れ病院の選定に長時間を要する事案は少なくなっている。

## 歳入における一括質疑

Q 固定資産税と市民税の税収増の要因をどう分析しているか。また、今後の市税収入の見通しを問う。

A 固定資産税は、大規模な建物が複数棟建てられ、それが家屋の評価対象となったことで収入が増えた。市民税は、業績が上振れした企業が増えたことで法人市民税の収入が増えた。  
今後の見通しは、法人市民税や固定資産税の償却資産は企業の業績に左右されるが、今のような企業の好調が続けば、来年度も税収増が見込める。  
個人住民税については、賃上げや定年延長による所得の増加が続いているが、長期的には働く世代の人数が減るため、税収も減少していくと考えられる。

## 会議録検索システムの運用が始まりました

令和7年8月から、大竹市議会の会議録（本会議、臨時会、各常任委員会、各特別委員会）を検索・閲覧等ができるシステムの運用が始まりました。市議会における発言内容等をこれまで以上に詳細、かつ簡単に調べることができます。



## ▶ 歳入における一括質疑

Q 令和6年度のふるさと納税の寄附額が前年度から増えた要因をどう分析しているか。地場産品基準の見直しは本市にどのような影響を与えているか。また、ポイント廃止前の駆け込み寄附の動きを問う。

A 6年度のふるさと納税の寄附額は、前年度より約3300万円増えた。その前年にゴルフ用品にキャッチコピーなどを印字しただけのものを返礼品とすることが禁止されており、その影響で、本市が取り扱うことのできるゴルフボールへの寄附が増えた。  
併せて、カキなどの海産物の寄附額も増えている。地場産品基準は年々厳しくなっており、返礼品の付加価値の半分以上が市内で生じていることを定量的に示すことが求められる。そのため一部のゴルフボールについては、返礼品として扱うことを断念した。  
今年度は、10月からポータルサイトのポイントが廃止される影響で、相当多くの寄附が駆け込みで入ってきたが、その分、今後の寄附額は減ると考えている。

## ▶ 歳入歳出全般にわたる総括質疑

Q 令和6年度は、市制施行70周年の記念すべき節目の年であり、記念事業が盛大に行われた。事業の手応えや80周年に向けた思いを問う。

A 70周年では記念式典など計49事業を実施した。  
コイちゃん70周年バージョンやロゴマークの様々な場面での活用、各種イベントでの「祝市制施行70周年」の掲示、70周年を記念した協賛CMや記念事業の放送により、市内外に70周年を広く周知できたと考えている。  
記念式典の開催やコイちゃんポストの設置は多くの方から好評をいただき、市民提案の16事業では約5千人の参加者が70周年を大いに盛り上げてくれた。  
多くの市民と行政が1年を通じて一緒に事業に取り組み、ふるさと大竹への愛着を深めるという目的を達成できたと考えている。  
80周年に向けては、市民の皆様により一層大竹市への愛着を抱いていただけるよう取り組んでいきたい。

